



「栄光のキリスト十字」

日本聖公会八戸聖ルカ教会

管理牧師 司祭 ステパノ こしやま てつや 越山 哲也

十字架は、イエス様が私たちの罪を救うために磔になられ苦難の中で息を引き取られた事をおぼえ続けるために教会、皆様のご自宅、幼稚園、身につけるアクセサリーとしても数え切れないほどのデザインがあり私たちの身近にあります。十字架の種類は何種類あるの

でしょうか。有名なのは次に挙げる8

種類①ラテン十字②ギリシャ十字③スカンディナヴィア十字④ケルト十字⑤聖アンデレ十字⑥聖ペテロ十字⑦マルタ十字⑧ロシア正教十字がありますが、調べればもっとたくさんの種類があると思います。

多くの教会の十字架はラテン十字といって一番ポピュラーな種類が掲げられていると思いますが、聖公会の成り立ちはケルトの霊性をルーツに持ちますので「ケルト十字」を掲げる聖公会の教会も多いようです。

カトリック教会ではイエス様が磔になっている磔刑十字が多いようです。よく皆さんとの会話の中で「私は磔刑十字より普通の十字架がいいな」という方が多いような気がします。十字架上で苦しんでいるイエス様を見るのは心が苦しくなるとの思いからなのでしょうか。

先日、十和田湖畔にある鉛山聖救主礼拝堂に掲げられている十字架について話題になりました。鉛山礼拝堂の十字架にはイエス様が磔になっているのですが、苦しんでいるお姿では

なく、マイターとチャジブルを着て両手を広げているお姿なのです。私はとても珍しい十字架だといつも鉛山礼拝堂に行くたびに思っていたが、「苦難のキリスト像」よりも実は「栄光のキリスト像」の十字架の方が歴史が古いそうです。この事について東北教区報あけぼの

2023年4月号で吉田主教が執筆されていたコラム「礼拝堂探検隊(第27回)」に書かれていたので一部抜粋してご紹介いたします。「初期のキリスト者は、キリストの十字架刑を苦難としてではなく、ご復活の喜び、死に対する勝利のしるしとして捉えていたため、十字架に架けられた写実的なキリスト像には抵抗があったそうです。

ですから十字架上のキリスト像もマイターのような冠をかぶり、チャズブルを着け、目を開いて、手もまっすぐ横に伸ばしています。」

また、長谷川主教から教えて頂いたのですが、京都教区桃山キリスト教会礼拝堂正面の十字架も鉛山礼拝堂と同じく、「栄光のキリスト像」だそうで大変珍しいそうです。

私たちはイエス様が私たちの罪を担って苦難の十字架を背負い死んでくださったことを忘れてはいけません。そして、死で終わったのではなく主は死に勝利し復活され、栄光のお姿を私たちに示してくださる事を「栄光のキリスト十字」は教えてくださっています。

